

〔八丈島特産園芸作物における生産振興技術対策〕

## 特産園芸作物の病虫害防除対策

### ～「菊池レモン」のネットハウス栽培下での昆虫の発生状況～

吉田滋実

(島しょセ八丈)

---

【要 約】「菊池レモン」を白色防虫網で被覆栽培すると、アブラムシ類が減り、ミカンハモグリガの発生が遅れた。カイガラムシ類が誤って侵入した場合には、甚だしく発生した。

---

#### 【目 的】

「菊池レモン」栽培において、ネット被覆が昆虫の発生状況に及ぼす影響を明らかにする。

#### 【方 法】

調査対象は1×1mm目合の白色防虫網を張った白ネット区と2×4mm目合の青色遮光網を張った青ネット区、および被覆しない露地区とした(表1)。病虫害については適宜防除を行った(表2)。それぞれの試験区に黄色、青色の粘着板を1枚ずつ設置し、捕獲した昆虫の種類と数を1週間ごとに調査した。

#### 【成果の概要】

1. 粘着板に捕獲された主な昆虫は、いずれの区でもアザミウマ類が特に多かった。アブラムシ類有翅虫は、各区とも2015年が2014年に比べ少なかった(表3)。
2. アブラムシ類有翅虫の捕獲数をみると、白ネット区では2年間を通じ極めて少なかった。一方、青ネット区と露地区は2年間を通じほぼ同様の増減を示した(図1)。
3. アザミウマ類の捕獲数は、青ネット区が調査期間を通じて多かった(図2)。なお開花期である2015年4月9日に、所内の「菊池レモン」12樹の花からアザミウマ類を収集したところ、ハナアザミウマ144匹、ダイズウスイロアザミウマ2匹(いずれもかんきつへの加害が知られていない種)、不明種2匹であった(データ省略)。
4. ミカンハモグリガについてみると、2014年、2015年ともにネット区は露地区に比べ最初の発生ピークが遅くあらわれた(図3)。白ネット区における捕獲数は2014年は顕著に少なかったが、2015年は青ネット区より多くなった。2015年7月23日にクロチアニジン水溶剤の高濃度樹幹散布を実施したが、粘着板による捕獲数は散布後にむしろ多くなっていた。
5. カイガラムシ類は管理作業の際に誤って圃場に持ち込まれたものと考えられた。特に白ネット区において通年発生が甚だしく、雄成虫のほとんどが本区で捕獲された(図4)。
6. まとめ:「菊池レモン」を白色防虫網で被覆すると、アブラムシ類の数を低減できた。各区ともアザミウマが多かったが、被害が確認できていないことから、主要な害虫ではないと考えられた。ミカンハモグリガは、ネット被覆した区で発生がやや遅れる傾向が認められた。カイガラムシ類が白色防虫網被覆下に侵入すると、他区に比べ甚だしく発生したことから、作業時に誤って圃場に持ち込んだりしないよう注意が必要である。

表1 調査圃場

調査区名称	被覆資材	面積	植栽株数
白ネット区	1×1mm目 白色防虫網 全面被覆	68㎡	成木6株・未成木4株
青ネット区	2×4mm目 青色遮光網 全面被覆	64㎡	成木5株
露地区	なし	48㎡	成木5株

表2 調査期間における農薬散布(2014年1月2日～15年12月31日)

年月日	農薬名(一般名)	対象害虫	年月日	農薬名(一般名)	対象害虫
14/01/16	フェンプロパトリン乳剤	ミカンハモグリガ	15/02/06	ジノテフラン水溶剤	チャハマキ
04/10	クロチアニジン水溶剤	シャクガ類, チャハマキ	03/17	ビフェントリン水和剤	チャハマキ
06/20	イミダクロプリド水和剤	カイガラムシ類, ミカンハモグリガ	04/02	マンゼブ水和剤	そうか病
07/24	アラニカルブ水和剤	ミカンハモグリガ	04/24	ベノミル水和剤	そうか病
08/18	DMTP乳剤 <sup>a</sup>	カイガラムシ類		アラニカルブ水和剤	アザミウマ類
09/18	クロチアニジン <sup>b</sup>	カイガラムシ類	07/23	クロチアニジン水溶剤 <sup>c</sup>	ミカンハモグリガ
			08/12	DMTP乳剤 <sup>a</sup>	カイガラムシ類
			09/19	チアメトキサム水溶剤 <sup>a</sup>	カイガラムシ類

a) 白ネット区のみ散布    b) 白ネット区, 青ネット区に散布    c) 高濃度樹幹散布

表3 粘着板に捕獲された昆虫の内訳<sup>a</sup> (2014年1月2日～15年12月31日)

	アブラムシ類 有翅虫		アザミウマ類		ミカンハモグリガ		その他 <sup>d</sup>	
	2014年 <sup>b</sup>	2015年 <sup>c</sup>						
白ネット区	50	15	2,463	1,890	67	130	906	3,384
青ネット区	833	331	2,679	3,496	120	90	1,167	1,986
露地区	956	474	2,240	1,753	136	252	1,577	2,756

a) 黄色と青色の粘着板での捕獲数の和    b) 2014年…2014年1月2日～14年12月25日調査  
c) 2015年…2015年1月1日～15年12月31日調査    d) 主にハエ目, ハチ目, アブラムシ類以外のカメムシ目

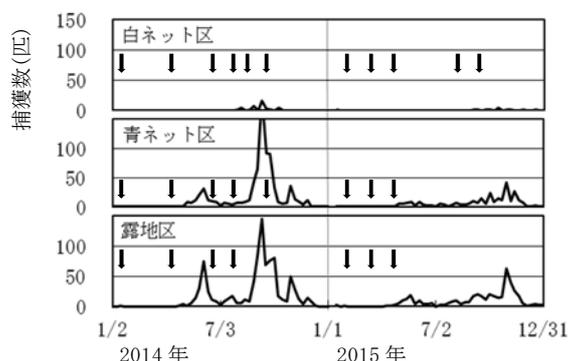


図1 アブラムシ類 有翅虫の捕獲数の推移  
※捕獲数は2013年12月12日～15年12月3日の黄色と青色の粘着板での捕獲数の和(図1～3共通)  
※記号 ↓: 登録がある殺虫剤の施用日(図1～3共通)

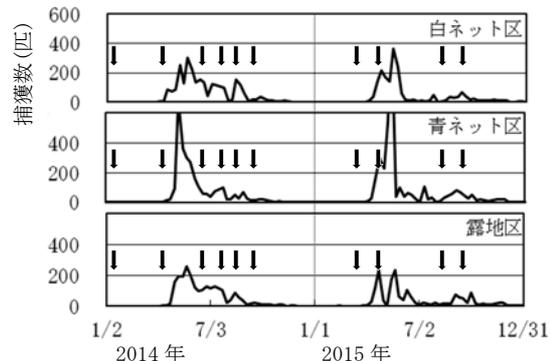


図2 アザミウマ類の捕獲数の推移

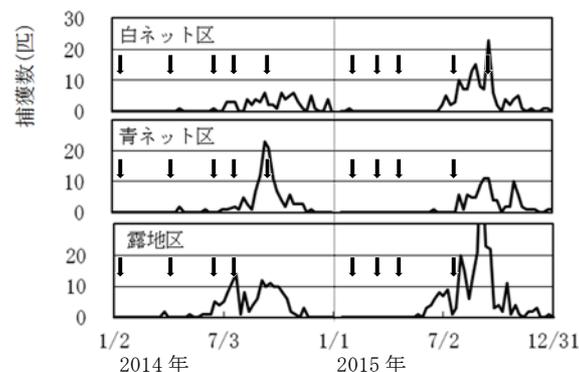


図3 ミカンハモグリガの捕獲数の推移

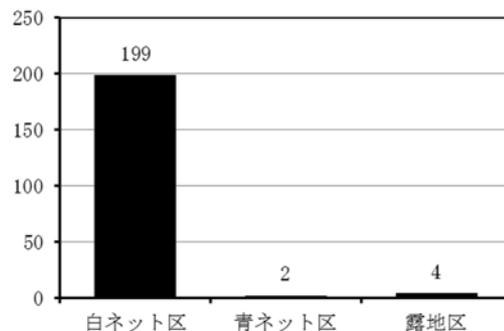


図4 カイガラムシ類雄成虫捕獲数  
※2015年9月24日～15年12月3日の黄色と青色の粘着板での捕獲数の和